

視点①-1 ふるさと水俣を知る取組

○総合的な学習の時間（GT）：水俣の食に関する講話



視点①-2 主体的な生徒会活動とあい活動

○毎月2回の詰め合い活動（あい活動）やテスト前のお詰め合い活動の実施

話し方を聞き方を高めながら、自分と互いを知る機会を設定した。
【具体的な活動】

- 定期テストの予習作成・すぐ近くトク・校内探し
- 地区回り・ワードウルフ・繋げて物語づくり・文字あそびズル

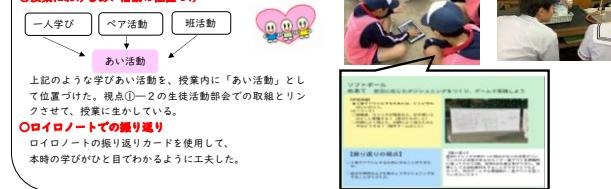
○生徒主体の取組

- 生徒会は学校教育目標、研究主題を共有し、
生徒会とローランドと年次計画を作成し、取組を行った。
・体育・保健委員会「運動と健康について」の発表
・給食委員会「朝食もう一品大作戦・朝食作りに挑戦」の実施



視点②-3 あい活動を基盤とした学び合いの実施

○授業におけるあい活動の位置づけ

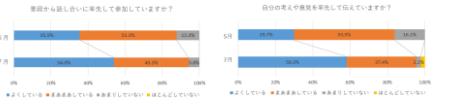
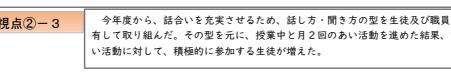
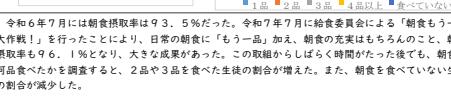
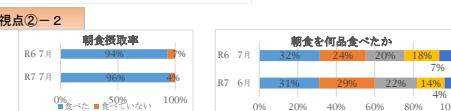
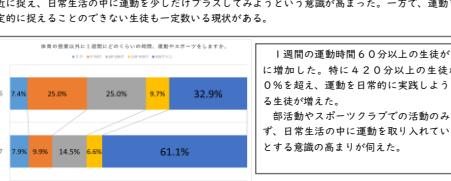


○ノイロートでの振り返り

ノイロートの取り返しコードを使用して、
本時の学びがひじめてわかるように工夫した。

研究の検証

視点②-1



令和6年7月では朝食摂取率は93.5%だった。令和7年7月に給食委員会による「朝食もう一品大作戦！」を行ったことにより、日常の朝食に「もう一品」加え、朝食の充実度ももちろんのこと、朝食摂取率も96.1%になり、大きな成果があった。この取組からしばらくの時間でたたのうても、朝食で何品食べたかを調査すると、2品や3品を食べた生徒の割合が増えた。また、朝食を食べていない生徒の割合が減少した。

今年度から、詰め合いを充実させるため、話し方・聞き方の型を生徒及び職員が共有して取り組んだ。その型を元に、授業中と月2回のあい活動を進めた結果、詰め合い活動に対して、積極的に参加する生徒が増えた。

授業から話し合いで率先して参加していますか？

選択肢	回答
よくしている	55.4%
まあまあしている	31.4%
ほとんどしていない	13.2%

自分の考え方や意見を尊重して伝えていますか？

選択肢	回答
よくしている	55.4%
まあまあしている	31.4%
ほとんどしていない	13.2%

研究の構想図

【研究主題】 自ら考え行動し、様々な“あい”から互いを高め合う生徒の育成。
～豊かな心・健やかな体の育成を通して～

自ら考え行動し互いを高めあう生徒。

豊かな心

【視点①-1】（健康増進部会）
・ふるさと水俣を知る取組

【視点①-2】（生徒活動部会・授業研究部会）
・生徒主体の生徒会活動とあい活動の実施

健やかな体

【視点①-1】（授業研究部会）
・人権教育 学級経営の共化

【視点①-2】（健康増進部会）
・外部と連携した食育

【視点①-3】（授業研究部会・生徒活動部会）
・あい活動を基盤とした学び合いの実施

PTA
保護者・地域とのつながり PTA新聞

【視点②-2 外部と連携した食育】

○栄養教諭による「食育ミニ講座」

【令和6年度】

第1回「朝食について」
第2回「運動と栄養」
第3回「貧食について」

【令和7年度】

第1回「体内での水の役割」
第2回「給食献立立て方」
第3回「栄養教諭へのインビュウ」

※水俣市給食センターから協賛

更新される給食紹介の動画の視察

※食育ミニ講座の資料

☆視聴できます

文化祭時、「豊かな心と健やかな体を支える食のあり方」について栄養教諭による講話を行った。子どもたちの健やかな成長に欠かすことのできない食事の大切さを理解していく。時間がなくなりついでいるそかになってしまったことがある。そこで簡単にできる「いつもの食事に『品追加』」という方法を教えていただき、改めて食事について見直すきっかけとなった。

運動の日常化に向けた取組

○登録会員登録表の活用

運動量を把握するために「運動習慣記録表」を活用した。例えば、登下校や「徒歩」などは「車で送迎」の生徒ではなく運動量が高くなっている。「徒歩」や「車で送迎」は誰かの手の方より運動量が高くなる。運動量に応じてランクをえすることで、日常生活の中で運動をしていく意識づけを行った。

○アダプティッドシートの活用

生徒の状態（性別・年齢・体力・能力・障がい・経験）に関係なく、誰でも楽しめる成功体験を味わうことができるよう、用具や人数、ルール等を適合（アダプティド）させるためのシートを作成した。視覚化することで、能力や技能の伸びに応じて、生徒自ら選択できるようアダプティッドシートを活用した。

○10分間運動プログラム

体力テストの結果を踏まえ、自己の体力分析を行った。また、体づくり運動の単元と連携させ、自己的体力向上に向けて、「簡単にできる10分間運動プログラム」を作成した。

○運動習慣記録の活用

運動を身近なものにしてしまし込み、自分のその日の運動量を把握するために「運動習慣記録表」を活用した。例えば、登下校や「徒歩」などは「車で送迎」の生徒ではなく運動量が高くなっている。掃除の時間も「徒歩」や「離れた隣」などは誰かの手の方より運動量が高くなる。運動量に応じてランクをえすることで、日常生活の中で運動をしていく意識づけを行った。

○運動の日常化に向けた取組

○登校時の運動習慣

運動習慣記録表を用いたことで日常生活中の運動を意識化することができた。

○運動の日常化に向けた取組

○運動習慣記録表の活用

運動量を把握するために「運動習慣記録表」を活用した。例えば、登下校や「徒歩」などは「車で送迎」の生徒ではなく運動量が高くなっている。掃除の時間も「徒歩」や「離れた隣」などは誰かの手の方より運動量が高くなる。運動量に応じてランクをえすることで、日常生活の中で運動をしていく意識づけを行った。

○運動の日常化に向けた取組

○運動の日常化に